

2021年3月(34号)

## JACET 北海道支部 Newsletter

〈北海道支部事務局〉

〒065-0013 札幌市東区北13条東3丁目1番30号

天使大学教養教育科 目時光紀 研究室内

TEL: 011-741-1051 (代表)

Email: metoki0702 [@を入れる] gmail.com

URL: <http://www.jacet-hokkaido.org/>

〔巻頭言〕

コロナ禍の中で

JACET 北海道支部長

上野 之江

令和2年度(2020)は新型コロナウイルス感染拡大から始まる遠隔オンライン授業やそれに伴う様々な対応に追われた年でした。オンライン授業用の教材準備に追われ入試業務では追試問題作成、いつもより多い入試日程をこなし、いつもの年よりあわただしく日々が過ぎていきました。いまだ先の見えない状況ではありますが、少しずつ落ち着きを取り戻している春休みです。

皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。JACET 北海道支部も「緊急事態宣言」に呼応し、支部大会と第1回研究会を取りやめました。発表者の先生方や準備に奔走して下さった役員の皆様には申し訳なく思っております。役員会、支部総会は11月にZoomで開催しました。

このようないつもと違う年度末ではありますが、ここに『JACET 北海道支部ニューズレター第34号』を無事お届けできることを嬉しく思います。今回はコロナ禍の中での授業実践について各大学より寄稿していただきました。2020年はコロナ感染予防のため多くの大学でオンライン授業が行われ、対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さや特徴を実感する機会となりました。この経験を踏まえ新しい英語教育構築への機運も高まっています。それぞれのオンライン授業実践の中で見えてきた課題や成功例などが報告されています。会員の皆様にはお目通しいただき次年度の授業の参考になれば幸いです。

コロナ禍により取り組まざるを得なかったオンライン授業ですが、大学での英語授業の在り方を変える良い機会となるでしょう。次年度は、支部大会や研究会で共に今回のオンライン遠隔授業の問題点や課題について議論し北海道支部の記録としたいと思います。

令和3(2021)年度の支部大会は7月に開催予定です。また、JACET 国際大会は60回記念国際大会となり2021年8月28日(土)~30日(月)にZoomで開催します。どちらにも多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。

最後に、会員の皆様のご活躍を祈念して、巻頭言といたします。

〔2020年度支部総会〕(Zoomによるオンライン開催)

日時：2020年11月7日(土)12:30～12:50

〈報告〉

1. 支部長報告
2. 幹事報告
  - 2-1. 2019年度 事業報告
  - 2-2. 2020年度 事業計画
  - 2-3. 2020年度 人事
3. 各種委員会報告
4. その他

〈議題〉

1. 2021年度 事業計画案
2. 2021年度 人事案
3. その他

〔支部会員による活動報告〕

2020年度の支部大会は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して中止となりました。このため、今年度のニュースレターでは、北海道支部会員による活動報告として、コロナ禍における各大学での授業運営について、会員の先生方に振り返りを行って頂きました。

2020年度の授業運営：北海道武蔵女子短期大学の場合

岩田 哲（北海道武蔵女子短期大学）

北海道武蔵女子短期大学では、学生のオンライン環境が十分に整わないことから、リアルタイム授業に制限を設け、全学を挙げて Google Classroom を利用したオンデマンド授業を主とすることが決定された。

英語の授業に関してはモードの違いによる影響は科目により大きく異なる印象である。ネイティブ・スピーカーの教員が担当するスピーキングでは、文化的背景の違いか、リアルタイムへの強い要望があり、条件付きで許可された。リスニングに関してはその場で学生の状況を見ながら適切な助言をとらならないものの、オンデマンドで解説動画や、Classroom 内のチャット機能を使った質疑応答を利用した。音声ファイルもアップするため学習者は自分の都合に合わせて繰り返し取り組むことが可能であった。リーディングや一般英語、専門科目の授業も状況は同様で、短い解説動画

と出欠管理を兼ねた課題提出を主として進められた。ライティングに関しては、課題の添削が主となり、オンデマンドでも最も影響を受けない展開となった。共通して言えることは、教材、解説などの動画などの作成と容量を減らすための編集、そしてそれらのアップに多大な労力を要したこと、また、個々人へのフィードバックに非常に時間がかかったことである。普段話していることのすべてを文字にすることは困難であり、その結果情報量を減らさざるを得ない状況ではあったが、同時に推敲の過程で内容的な無駄をかなり省くことができた。また、コメントのやり取りを通じて科目の特性や受講者数の影響をあまり受けずにフィードバックをすることができた印象である。これを機会に対面とオンラインの良い点をうまく利用して授業を進めたい。

## 2020年度の授業運営：札幌大学の場合

尾田 智彦（札幌大学）

春学期は、全科目遠隔授業とし 5/11 から開始、3 回分の補講を学期中にオンラインで実施、という方針でスタートした。途中 6/22 より一部の科目（体育や教育実習など）で対面授業が復活した。評価については、対面での試験実施は無く、レポート等での評価が推奨された。私の英語の授業では、評価の一部として Glexa 上で期末試験を行った。

秋学期は、受講者数が教室定員の 1/2 を超える授業は遠隔、それ以下は対面でスタートした。「科目数」では 8 割近くが対面授業だったが、「実感」としては半々といったところ。学生にとっては、実際に受ける授業は大人数（遠隔）のものが多く、また私個人は対面 4、遠隔 4 であった。その後感染拡大により、11/23 から 1/15 まで全て遠隔授業の方針が示された。1/16 以降は対面で実施された試験などもあった。英語では春同様、Glexa 上で遠隔で期末試験を行った。

私の授業は、春学期は基本的に「ライブ（同時配信）＋録画」で実施した。秋学期は、しかしながら、対面と遠隔が並走する中で大学の方針もあり、ゼミなど一部を除いてはオンデマンドで行った。

札大のシステムは、全学のポータルサイト（アイトス）、Microsoft Teams と、課題提出等で Microsoft Forms が推奨され、Glexa も英語以外の科目を含め、かなり使われた。その他個人的には、e-Learning の教材や、教科書付属の e-Learning サイトを利用した。

コロナ禍では、これまでに存在した問題が顕在化することが多いが、学力、動機づけ、経済状況、情報リテラシーなど、様々考えた 1 年でもあった。

## オンラインによる一般英語「ビートルズ」の授業

笠原 究（北海道教育大学）

私の一年生対象の一般英語（「外国語(英語)IV」）でのオンライン授業実践をご紹介します。このコースでは私の趣味もかねて Penguin Readers の The Beatles (Paul Shipton 著) という教材を使用しています。今年度は Zoom によるオンラインのライブ授業と、大学の学習管理運営システム (LMS) である UNIPA を利用した課題提出の 2 本立てで進めました。

課題は UNIPA を通じて学生に配布します。次の授業で扱う範囲を自分で読ませ、(1) T or F questions (2) Sentence Hunt (3) Topic Writing という 3 つの課題に取り組みさせます。(1)は本文に関する 5 つの真偽問題に答えさせる、(2)は日本語で提示した文に対応する英文を抜き出させる、(3)は本文に関するオープン・クエスチョンに対し、自分の意見を英語で書かせる課題です。

授業では課題を基にペアや全体で英語による討議をすることが中心になります。Zoom のブレイクアウト・セッションを使用すれば自動でペアやグループを作成してくれるので、ほぼ対面授業に近い形で授業を進めることが出来ました。まずペアで課題(3)に対する意見交換をさせ、その後に全体で意見を共有します。続いて Paraphrasing というペア活動に取り組みさせます。私が本文から抜き出したキーワード 2 つをペアの一人だけに提示します。その学生は英語でそのキーワードを説明し、相手にその語を言わせるという活動です。次に課題(1), (2)に関してペアで答えを確認させ、そこにある表現を使って例文を作らせる活動を行います。最後に「本日の歌」としてビートルズの 1 曲を選び、穴あきのプリントを配ってディクテーションをさせます。曲の感想を話し合わせた後は、私のへたくそなギターと共にみんなで曲を合唱します。授業後には課題を UNIPA にあげてもらい、課題(3)に関しては私が英語による簡単なコメントを付けます。

Zoom をうまく使えば、オンラインでも一方通行にならない、双方向の授業ができることがわかりました。また LMS も効率よく課題を点検するのには向いていると思います。ただ、ここで紹介した授業のクラスサイズは 40 名であり、これ以上のサイズになった場合どのように対処していくかは今後の課題です。

## コロナ禍での授業運営：小テストの活用

塚越 博史（北海道医療大学）

昨年度実施した「オープニング・チャットクイズ」と「Form 小テスト」を紹介します。

◆チャットクイズ（講義開始時の出欠確認）：1. 講義開始前からモニターに問題を提示 2. 講義開始直後に解答をチャットで送信させる 3. 解答受信後に解説という流れです。

以下に問題例を提示します（時事ネタや学生の興味を引きそうな日常的な話題を使用）。人気グループの歌の英文タイトルの文型を問う問題です。学生は正解と思う数字をチャットから送信します。NiziU の歌のタイトルより：

(^^♪Make You Happy^^♪

1. I love you 型    2. This is a pen 型    3. それ以外

2 例目（SmartNews より）：ニュースの英文タイトルの主語（主部）を問う問題です。これも多肢選択式で答えさせました。

◆Form 小テスト：講義中は、こうしたチャットクイズに加えて、事前に準備しておいた講義内容に関する複数の質問を 10～15 分おきに投げかけて、チャットや Form を利用して解答させました。

Train inspired by anime  
"Demon Slayer" begins  
limited time run  
KYODO NEWS



さらに講義終了時、当該講義の要点を多肢選択・記述式を併用しながら Form 上で答えさせました。チャットは手軽ですが採点に時間がかかるのが難点です。Form は採点が容易なのと、正答率などの統計データをリアルタイムで閲覧・提示できるという利点はありますが、設定に時間を要するのが欠点です。

これらの小テストの結果は最終評価に加えしました。活動を通じた留意点は、(1)双方向性の保持、(2)特にオンライン受講学生の講義への積極参加の促進、(3)新入生のクラスでは、学生同士が見ず知らずの場合がほとんどですので、個人指名は控えたことでした。以上、雑駁な紹介ですが、学生の反応は概ね良好だったと感じています。

オンライン授業の良さを活かしてこれからも継続を

町田 佳世子（札幌市立大学）

2020 年度の始まりはオンライン授業への転換でどの先生方もたいへんなご苦勞を経験されたと思います。札幌市立大学は前期も後期も実技科目以外はすべて Microsoft Teams と Forms を使ったオンラインで授業を行いました。前期が始まった当初は学生の通信環境にばらつきがあったため、ビデオ会議や動画は使わず PDF 化した資料と音声ファイルのみで 1 講義につき 25MB 以内という厳しい制約を非常勤の先生方にもお願いし、たいへんなご苦勞をおかけしましたが、後期になると先生方も学生達も経験知が蓄積し、かなり工夫ができるようになりました。また FD を通して他の先生方の授業運営方法を共有することができ、とても参考になりました。

2020 年度後期は実技科目のみ対面授業、それ以外は遠隔でオンラインかオンデマンド授業でしたので、私が担当する英語科目と講義科目は遠隔で実施しました。学生達には臨場感をもって受講してほしいだったので、オンデマンドにはせず、3～4 日前に毎回授業進行のスケジュール、資料と音声を Teams にアップロードし、授業開始時に Forms で出席を送信してもらい、途中はずっと投稿(post)とチャットで文字発信を続けました。授業も必ず 90 分行き、60 分授業して残りは各自で課題、という方法はとらないようにしました。そういう授業運営もあると思いますが、やはりこれをお読みの多くの先生方と同じように、学生達に顔は見えなくても PC の向こうには先生がいるという思いを常に持ってもらいたかったのと、私自身も投稿(post)の向こうには学生達がいるという思いを感じたかったからだと思います。学生達の多くは私の投稿に対してすぐリアクション（いいねマークや顔マーク）してくれましたので同じ画面を見ている感覚を持つことができました。ビデオ会議を使わずに、資料と音声、Forms での出席確認と試験、そして Teams の投稿(post)とチャットという方法にこだわったのは、新しい授業方法で教育の質を保つことに自分なりに挑戦したかったのと、やはりオンライン授業の良さ、利点がわかってきたからだと思います。

札幌市立大学は 2021 年度前期もオンラインで授業を行うことが決まっています。さらに大学として今後もオンライン授業の可能性を検討する動きがありますし、私自身もオンライン授業の継続を望んでいます。オンライン授業の継続を望む声は教員だけでなく、学生達の間にもあります。本学で後期終了後に行ったオンライン授業に関するアンケートですが、その中で、コロナ禍がおさまったら授業を対面に戻す方がよいかを聞いた質問では、77%の学生がオンラインが効果的であった授業は、オンライン形式を継続する方がよい、と回答し、すべて対面式の授業にする方がよいと回

答した学生は 11%にすぎませんでした。学生達にとってオンライン授業の何がよかったかと言いますと、通学しない分時間を有効に使えるが最も多いのですが、復習をしやすいは 6 割以上、予習をしやすい、集中して受講できる、質問や意見を述べやすいという回答もそれぞれ 25%前後あります。もちろんいいことばかりではなく、孤立感がある、音声聞き取りにくい、目が疲れる、先ほどとは逆に集中できないという回答もありました。どのような授業科目でオンラインがよかったかでは、英語、座学全般、プログラミングやデザインの専門科目も名前があがっていました。なぜよかったのかは、動画や音声を何度も繰り返し聞いたり見たりできる、事前に資料がアップロードされているので予習ができる、十分時間をかけて問題に取り組むことができる、授業進行が工夫されていて集中できるなどでした。これらの結果から私たちが解釈したことは、科目に関係なく、授業運営の工夫が十分行われていれば学生達もオンライン授業に満足すること、またオンラインだから集中できる・できないのではなく、オンラインでも対面のときと同じように学生個々の特性が表れているということでした。

コロナ禍により取りまざるを得なかったオンライン授業ですが、大学の授業の在り方を変えていく絶好の機会であるという認識は本学の中で広がりつつあります。そうであればこそ、オンライン授業の問題点を洗い出し真摯に改善する必要があります。授業の方法を工夫して教育の質を担保することはもちろんですが、成績評価に欠かせないオンライン試験の公平性をどう実現するかは喫緊の課題です。対面のときのような方法で不正を防ぐことはできません。それでも公明正大な試験を実施するにはどうしたらよいか、どのような試験問題を作成すればよいかを考え、その方法を先生方間で共有していくことが必要だと考えています。

## 2020 年度の授業運営：天使大学の場合

目時 光紀（天使大学）

今年度、天使大学では新型コロナウイルス感染予防のため、4 月～5 月中旬までの授業は全て休講にしました。入学式もオリエンテーションも開催せず、学生は自宅待機となりました。ただ、5 月下旬から順次オンラインで授業を再開しました。原則、オンデマンド授業は Google Classroom、リアルタイム授業は ZOOM を使って行いました。

後期も講義系の科目は原則オンラインで授業が行われましたが、一部の実習・実技科目は対面授業となりました。学生はマスク着用のうえ 1.2 メートル以上の間隔をとって座り、教員はマスクに加えフェイスシールドを着用し、授業を行いました。授業終了後は、学生も教員も使用した机や椅子を各自で消毒するなど、医療系大学として徹底した感染予防を行いました。結果、クラスターは今日現在発生していません。

英語科目は全て Google Classroom を使って授業を行いました。授業中に説明する内容の多くを文字に起こしたり、動画やパワーポイントのスライドにまとめたり、オンライン授業用に新規にハンドアウトやワークシートを作成したりと、毎日「クタクタ」になりながら、前期・後期を乗り切りました。ただ、学生からは「分からなかった箇所を何度も見返すことができ、大変良かった」などの声をもらい、授業評価も非常に良かったです。

成績評価は課題の提出（15 回）と期末レポート（1 回）で行いました。課題やレポートの出し忘

れ等はほとんどなく、本学の学生の真面目さに感謝しているところです。

2021 年度も一部の科目を除き、天使大学では引き続きオンラインで授業を行っていきませんが、学生に満足してもらえるような授業を行い、自律学習者を一人でも多く育てたいと考えています。

## 2020 年度の授業運営：北星学園大学の場合

森越 京子（北星学園大学）

2020 年度は一部対面の時期もあったが、ほとんどがオンライン授業となり、Moodle と Zoom を活用して進められました。オンライン授業のスキルは教員によってさまざま、個人的にはリスニング・スキルのクラスを担当しており、CALL 教室での対面授業と同じような形を、Zoom で進めようとしたのですが、やはり、進度が遅く、例年のようには、テキストを進めることができませんでした。

最初は、Zoom 上で、パワーポイントやビデオ・音声ファイルの再生などをスムーズに操作し、ブレイクアウトルームで学生同士のペアワークやグループ活動をさせるだけで大変でした。オンライン教材を活用したり、Zoom で音源を聞き、ノートテキングをし、その画像を Moodle 上に提出させたり、学生が受け身の授業にならないように心がけました。Moodle 上の小テストも、基本的なテストの概念の違いから、フィードバックの仕方など、細かな設定でうまくいかないことも多くありました。幸いにも、オンライン授業をサポートしてくれる同僚・職員がいたことで、どうにかこの 1 年を乗り切った感じです。新しく PC を購入し、デュアルモニターにし、オンライン授業環境をそろえた先生も多かったと思います。

このような中でも、本学科の特色である「インターナショナル・チュータープログラム」を続けることができ、対面・オンライン授業にチューターが参加し、学生はさまざまな英語のバリエーションを体験することができました。授業外の活動である English Lunch もオンラインで続けていただきました。さらに、絶対難しいと考えて英語ライティング・ラボが、完全オンライン化されました。予約システムはムードルやフリーのアプリケーションを使って構築し、ライティング・チューターも Zoom 機能を最大限活用し、学生をサポートしていただきました。海外研修・グローバルインターンシップもオンラインの形で、海外のプログラムに学生が参加しています。振り返ると、それぞれの場所で多くの方々が最善をつくし、どうにか乗り越えた 1 年でした。